

ヒトメタニューモウイルス感染症

愛媛医療生協

ヒトメタニューモウイルスは、乳幼児の気管支炎や肺炎などの呼吸器感染症を引き起こすウイルスで、毎年 3～6 月に流行します。

【感染経路】

くしゃみや咳などの飛沫や、手指を介した接触で感染します。ウイルス排泄は発熱後 1～4 日間がピークですが、発症後から 1～2 週間は持続するので注意が必要です。

【潜伏期間】 4～6 日間

【好発年齢】 生後 6 ヶ月頃～2 歳までに約 50%、5 歳までに 75%、遅くても 10 歳までに一度は感染します。1 回の感染では十分な免疫を獲得できず感染を繰り返します。

【臨床症状】

38℃を超える発熱や咳、鼻汁、呼吸時の喘鳴がみられます。そのほか息苦しさ、頭痛がみられることがあります。通常は発熱が 5 日間程度、そのほかの症状も 1～2 週間で改善します。

一般的な“かぜ”で終わることもありますが、乳幼児や高齢者では肺炎や気管支炎になることもあります。そのため発熱が長引く場合は、重症化や中耳炎の合併、ほかのウイルスや細菌の二次感染の可能性がありますので医療機関を受診してください。

【診断】

年齢や流行状況、臨床症状、胸部 X 線検査から総合的に判断します。聴診または画像診断で肺炎が疑われる 6 歳未満の患児は迅速検査での診断が保険適用となっています。

【治療】

特異的治療はなく、症状に応じた対症療法が基本となります。水分摂取量が低下し、脱水傾向になった際は経口補水や点滴が必要です。息苦しさで血中の酸素が低下している場合は酸素投与を行います。そのほか症状に合わせて治療を行います。

【家庭で注意すること】

感染力が非常に強く、大人も含めた家庭内感染、施設内感染を引き起こすことがあります。少なくとも 1 週間は患児の触れたものやなめたものは、こまめにアルコールや塩素系の消毒剤で消毒し、看病後は手洗いなどを行ってください。学校は発熱がないなど全身状態が安定していれば登校できます。

ヒトメタニューモウイルス感染により既往の気管支喘息が増悪する場合があるので、注意してください。

(2024. 1. 12)